

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学校名	静岡県立沼津工業高等学校	校長名	望月 保宏
------	----	-----	--------------	-----	-------

A：十分目標を達成することができた      B：おおむね目標を達成することができた  
 C：あまり目標を達成することができなかった      D：ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全に気を付けていると答える生徒 100%</li> <li>交通事故件数 前年度比 50%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全に気を付けていると答えた生徒 98.8%</li> <li>交通事故件数は前年度 19 件、本年度 40 件</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全に気を付けていると答えた割合は高かったが、警察からの自転車指導カード件数は 192 件と多かった。</li> <li>自転車事故が増加しているため、来年度からはヘルメットの着用を全学年に義務づける。</li> <li>無事故無違反キャンペーンを 2 回実施したが事故削減には至らなかった。今後も警察機関等と連携しながら、交通事故削減に努める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災訓練への参加率 60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の参加率は 8.3%</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、地域防災の日に合わせて防災訓練前日に津波注意報が発令され、訓練自体が中止になった地区もあった。また、感染症の流行と重なり、体調不良者も多かった。課題は、20%程度の参加意思希薄な生徒への対応と考える。</li> <li>目標には達しなかったが、気候変動等の影響並びに校内での防災訓練の成果として生徒の防災意識は高まっている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒は 96.2%</li> <li>各実習後、3S（整理整頓清掃）を実施できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>整美委員による月毎の校舎内点検でも、概ね美化が保たれている。新校舎へ移動したため、より一層の校内美化を呼びかけていく。</li> <li>各実習室、教室の整理整頓清掃を常に心掛けるように生徒を指導することができている。</li> </ul>

イ	規範意識 や人権意識 等を醸成す る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアサポート研修の実施</li> <li>信頼できる先生がいると答える生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生を対象に入学後と科分け後の計2回、ピアサポート研修を実施した。また、1年生を中心にLHRにて、ソーシャルスキルトレーニングを5回実施した。</li> <li>信頼できる先生がいると答えた生徒は84.3%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアサポート研修を通じ、新しい人間関係構築の不安が減じたと答える生徒が多かった。</li> <li>信頼できる先生がいると答える生徒の割合が更に向上するよう、多様な生徒への理解を深める職員研修を実施していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>主権者教育、消費者教育等副教材を活用した授業・講話の実施</li> <li>SNSに関連するトラブル件数0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を踏まえ、主権者教育や消費者教育に関し、自治体等から提供される副教材を活用し円滑に実施できた。</li> <li>SNSに関するトラブル件数は0件であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>主権者教育、消費者教育ともに、教科等横断の視点により実践していく。</li> <li>集会や各HRでの指導が浸透したと考えている。今後も継続指導を実施していく。</li> </ul>
ウ	基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席者、遅刻者数の削減(前年度比20%減)</li> <li>服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席者は17.5%増加、遅刻者は70.6%増加</li> <li>服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答えた生徒は95.8%であり、学校生活も落ち着いている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスやインフルエンザに係る欠席が増加したため、目標は達成できなかった。体調管理等について継続的に指導していく。</li> <li>校則を改訂し、生徒の自主性を養うことができた。また、集会や各HRでの指導が浸透したと考えている。今後も継続指導を実施していく。</li> <li>身だしなみについて、生徒自ら考える機会を増やしたい。</li> <li>生徒一人ひとりの存在価値、自己肯定感が高まるよう継続指導したい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト優良校</li> <li>朝食摂取率90%以上</li> <li>健康診断結果による再検査受診率の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は、男女とも優良校に認定されなかった。</li> <li>朝食摂取率は86.8%であった。</li> <li>健診再検査受診率は歯科31.9%、視力67.7%であり、項目によって差がある。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々、生徒の体力水準が低下している。粘り強く体力向上のための指導を講じていく。</li> <li>生徒個々の健康管理意識が低いので、「ほけんだより」等を通じて規則正しい生活、朝食摂取、再検査受診・疾病理解の大切さを呼びかけていく。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育、学校保健計画への位置づけを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画に基づき、教科の中で、がん教育を実施した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育は引き続き学校保健計画に基づいて、複数での教科指導を通じて実施したい。</li> </ul>
エ	魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話をよく聞いていると答える生徒 100%</li> <li>・提出物の期限厳守</li> <li>・年2回の「授業参観週間」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話をよく聞いていると答えた生徒 97.1%</li> <li>・多くの生徒が提出期限を意識した生活を送っている。</li> <li>・年2回「授業参観週間」を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が先生の話をよく聞いていると答え、ほぼ成果目標に達した。</li> <li>・自己管理能力は工業科で学ぶ生徒の基本であるので、今後も意識の高い生徒の育成を目指す。</li> <li>・授業改善が活発になるための授業参観週間を今後も継続していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して授業を実施する教職員 70%以上</li> <li>・半分以上の教科で授業が分かる と答える生徒 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員（100%）がICTを活用した授業を実施できた。</li> <li>・半分以上の教科で授業が分かる と答えた生徒 86.8%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークの接続環境やプロジェクターの利用など、教室におけるパソコンの利用環境が整備されているため、ICTを活用した授業の実施率は100%であった。今後さらに有効な活用方を検討していく。</li> <li>・ICTの活用や授業改善の結果、授業が分かる と答えた生徒が目標を大きく上回った。今後も分かる授業の実践を目指す。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率 100%</li> <li>・大学進学希望者の試験合格率 90%以上</li> <li>・外部機関模試の活用拡大</li> <li>・社会人講話等の満足度 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月中旬時点で、学校推薦を希望している生徒の就職内定率は 97.1%</li> <li>・大学進学希望者の試験合格率は 86.2%</li> <li>・外部模試（就職、進学）は例年同様に活用した。</li> <li>・社会人講話等の満足度は 83.5%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職は年内でほとんどの生徒が内定を得ており、昨年度と同程度の数字であった。また、今年度も不合格理由が「面接での内容等」と答える企業が多かったので、話す内容はもちろん、面接者からの質問に的確に答えられるよう、対策を講じていく必要がある。</li> <li>・大学進学合格率については、国立大学を希望する生徒が不合格になる場合が多く、基礎学力と専門知識、プレゼン能力などのレベルを上げていく指導を早い段階から行う必要がある。</li> </ul>

<p>オ</p>	<p>Society5.0 を生き抜く 人材育成の ための産業 教育を推進 する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりに関心があると答える生徒 90%以上</li> <li>・技能検定及び国家試験等の受検者数、合格者数の増加</li> <li>・ものづくりに関する各種コンクール、競技会等での上位入賞者数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりに関心があると答えた生徒は 91.8%</li> <li>・放課後、長期休業中を中心に、各種の国家資格の講習会を実施するなど、国家試験に積極的に取り組める環境を整えたことで、受験者数、合格者数が増加した学科があった。</li> <li>・県ものづくり競技大会への参加</li> <li>・建築甲子園への参加</li> <li>・県高校生エコラン大会への参加</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械科：技能検定2級（普通旋盤）合格者1人。ガス溶接技能講習修了20人</li> <li>・電気科：第二種電気工事士合格者25人、第一種電気工事士筆記試験合格者24人</li> <li>・電子ロボット科：工事担任者第二級デジタル通信は結果待ち。第二級アナログ通信合格者15人。（アナログ合格者は5倍増加）</li> <li>・建築科：技能検定3級（大工）はマイスター制度を利用し9人受験し、3人合格。昨年度より受験者数が増加した。なお、マイスター制度の利用が隔年制のため、来年度は減少する可能性がある。</li> <li>・都市環境工学科：危険物取扱者乙4類21人受験し合格者8人</li> <li>・機械科：県ものづくり競技大会（溶接）と（旋盤）に1人ずつ参加予定で、ものづくりの基幹技術力の向上を図る。</li> <li>・電気科：県ものづくり競技大会（電気工事）は1人参加予定で、電気工事士としての力量を一層高めていく。</li> <li>・建築科：県ものづくり競技大会（木材加工）は1人参加予定で、加工技術力の向上を図る。</li> <li>・都市環境工学科：県ものづくり競技大会（測量）は5人、（化学分析）は2人参加予定で、測量技術や分析力の向上を図る。</li> <li>・建築科：建築甲子園静岡予選に参加し、製図技能の向上を図った。</li> <li>・テクノクリエイション部：県高校生エコラン大会の燃料電池自動車部門で準優勝、電気自動車部門で6位入賞</li> </ul>
----------	---	--	--	----------	--

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WRO大会への参加</li>   <li>・ JMC R東海大会への参加</li>   <li>・ 県ロボット競技大会への参加</li>   <li>・ ロボットアイデア甲子園県大会への参加</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロボット制御部：WRO大会では、積み重ねた技術の成果として全国大会（東京）に出場した。</li> <li>・ 電子技術部：東海大会の結果、3台のマシンが12月に長野県で開催される全国大会に出場</li> <li>・ 電子ロボット科、テクノクリエイション部：MCR部門には7台、自立制御型部門には3台参加した。結果は、MCR部門のカメラクラスで優勝1台、アドバンスクラスとベーシッククラスで、それぞれ1台ずつ入賞</li> <li>・ ロボット制御部：ロボットアイデア甲子園では、医者の代替で診察するロボットアイデアを発表し、8位敢闘賞</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外での発表、展示会への積極的参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各工業科：オープンハウスに参加し、ものづくり教室等を実施。（御殿場青少年交流の家）地域連携として、隣接する沼津第三中学校の生徒を対象とし、夏休みにもものづくり教室を開催した。（本校）沼津市制100周年行事の一環で、物づくり教室や実習等での成果を発表した。（プラサヴェルデ）</li> <li>・ ロボット制御部：子ども学習支援を実施（第三地区センター）。プログラミング出前授業を実施し生徒が習得した技術を還元した。（第二小学校）</li> <li>・ 生徒会：「ミニミニ水力発電コンテスト」にて技術支援を実施（白滝公園）</li> <li>・ 機械科：・実学チャレンジフェスタへ参加し、ドッグタグ（ネーム）製作教室を開催した。（ツインメッセ静岡）</li> <li>・ 電子ロボット科：子ども夏大学に参加し、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝えた。（プラサヴェルデ）こどもアカデミーに参加し、生徒が</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種大会、地域イベント、生徒研究発表会等へ参加することができ、生徒の達成感や充実感を高めることができた。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校訪問、ホームページ・SNSの充実等、広報に有効な取組の推進</li> </ul>	<p>電子工作の講師を担当した。          (ぐりんぱ) 地元産業機械メーカーのワークショップに参加し、小さな子どもたちへの技術支援を実施した。(サントムーン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築科：子ども夏大学に参加し、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝えた。(プラサヴェルデ) 地域連携として沼津第二校区にてミニチュア黒板づくり教室を開催した。(第二校区)</li> <li>・ 都市環境工学科：11月の「土木の日イベント」に合わせ、課題研究で製作した「レンガ橋」を展示し、参加者から好評を得た。</li> <li>・ 生徒募集に繋げるため、全教員で分担し東部地区中学校を訪問し、入学希望者の手応えを感じることができた。</li> <li>・ 毎週金曜日の夕方、中学生対象の個別相談会を実施した。</li> <li>・ ホームページは、投稿マニュアルを作成し、各教職員が最新情報を掲載できるよう努めた。</li> <li>・ 公式X (旧ツイッター) 及びYouTube では、生徒の活躍や中学生向けイベントの情報を効果的に発信できた。</li> <li>・ 新たな取り組みとして、デジタルサイネージを新校舎で運用し情報の提供に努めた。</li> <li>・ 部活動等の全国大会出場前には関係自治体首長を表敬訪問し、沼工を大きくPRできた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校訪問の拡大、個別相談会の実施、他校と合同の学校説明会等を実施したことにより、学校の広報に寄与することができた。来年度以降も継続した取組を実施していく。</li> <li>・ 中学校訪問の拡大、個別相談会の実施、他校と合同の学校説明会等を実施したことにより、学校の広報に寄与することができた。来年度以降も継続した取組を実施していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学科教育課程の継続検討及び生徒の実情に合わせた教育課程の編成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習評価も含め本校の実情に合った教育課程の検討を継続的に行った。</li> <li>・ 本校の将来を見据えた学</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新教育課程実施2年目となり、特に観点別学習状況の評価については、本校生徒の実態に即し適切に評価できたと考える。</li> <li>・ 引き続き学校の在り方を</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科間の連携によるものづくりの推進</li> </ul>	<p>校の在り方などを、時間をかけて検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベント等を通し連携を図った。</li> </ul>		<p>踏まえた教育課程を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業科全学科が多くのイベントや競技会に出展・出場する過程を通して、学科相互に技術支援することができた。(旋盤技術、電子技術、化学技術等)</li> </ul>
カ	<p>活気に溢れ魅力ある学校教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動計画書・報告書の定期的な提出と活動時間および帰宅時刻の徹底</li> <li>・各部の掲げた目標を半数以上の部が達成する</li> <li>・部活動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画書・報告書の提出は概ね実施できている。定時制の授業が始まるまでには体育施設の移譲は完了している。</li> <li>・各部ともコロナ禍前のような活動ができた。生徒がのびのびと活動する様子が、多くの場面で見られた。</li> <li>・部活動に意欲的に取り組んでいると答えた生徒75.6%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の働き方改革もある中で、部活動指導については部活動ガイドラインを遵守するよう、繰り返し呼びかけていく必要がある。</li> <li>・活動計画書・報告書をデジタル化することにより業務を改善することができている。</li> <li>・県大会等にて顕著な実績を残し、東海大会、全国大会で活躍する部があった。東海高校総体(ボート部1人)、東海選抜大会(レスリング部1人)、東海新人大会(陸上部1人)、国民体育大会(ボート部1人)、ジュニアオリンピック(レスリング部1人)</li> <li>・教職員の責任の荷重が大きく、生徒のニーズに对应されていない部分もある。</li> <li>・多くの大会やイベントに参加することにより、生徒が意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・生徒が主体的に取り組むことができるように、教員の支援が必要であるが、部活動の在り方を考える必要性がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に満足していると答える生徒90%以上</li> <li>・学校が楽しいと答える生徒90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に満足していると答えた生徒88.5%</li> <li>・学校生活が楽しいと答えた生徒88.6%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活において多くの生徒が前向きに臨み、充実した生活を送っている。学校行事等へ、より主体的に取り組めるような内容を検討していく。</li> <li>・個を尊重する傾向がある中で、集団で取り組むことや、一生懸命取り組むことの大切さを今後も伝えてい</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に意欲的に取り組んでいると答えた生徒 94.2%。沼工祭・インターンシップ・修学旅行を計画どおり実施することができた。</li> </ul>		<p>きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動や行事が苦手な生徒に対する声かけを心がけていきたい。</li> <li>・多くの規制が解消され、生徒が充実した学校生活を送れたことに成果を感じた。</li> <li>・沼工祭では、生徒会が中心となり、新校舎を展示場所とし、食品販売をキッチンカーに依頼、体育館ではステージ発表、体育祭のアーチ縮小など新しい試みを行った。多くの改善点が明確になったため、次年度に継続した取り組みを行う。</li> <li>・学校行事全般でも、自ら考えて行動するなど、行事の目的を達成することができた。あわせて、教員の企画力とマネジメント力が、今後も一層重要</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修・研究の評価実施</li> <li>・研究評価大会・外部研究助成への積極的エントリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学科が、県工業校長会主催の生徒研究論文に応募できた。</li> <li>・複数の研究助成へエントリーした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ロボット科：山崎賞助成、静岡県高等学校工業教育研究会研究助成へ応募し研究助成金を得ることができた。</li> <li>・建築科：三島福祉協会の社会福祉活動助成金と、プロフェッショナルへの道（県教委事業）の研究助成金を得て、ものづくりをより一層推進することができた。今後も積極的に応募し、工業教育を充実させていく。</li> </ul>
キ	教育予算の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用備品等の整備・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限りある予算の中で、適切な予算執行を行い、備品等の整備充実を図った。</li> <li>・電気主任技術者の認定校であり、教育用備品の状態は常にチェックしている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営予算等が毎年減少している中、事業内容を見直す等、効果的な執行に努めていく。</li> <li>・認定校に係る教育用備品の不備は速やかに修繕依頼した。</li> </ul>



様式第3号

	<p>る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な校内安全点検の実施</li> <li>・要改善箇所の低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎の使用前に、安全点検を実施した。</li> <li>・PTA と連携し校内の安全点検を実施した。</li> <li>・要改善箇所の修繕・学校安全パトロールで指摘のあった事項の修理等を行った。</li> <li>・Wi-Fi アクセスポイントの設置により生徒の学習環境の改善を行った。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検の結果、改善が必要と判断された箇所について情報共有を図り対応を検討中</li> <li>・実習用設備は経年劣化しているものもあるが、安全第一の実習が実施できるよう管理できた。</li> <li>・施設が著しく老朽化しているため、生徒の安全・安心を守るという使命に立ち返り、学校を経営していく。</li> </ul>
--	-----------	---	---	----------	---